都民の消防官　5氏に栄誉

昼夜を問わず、都民の安心・安全を守るために日々職務に励む東京消防庁の消防官約1万8000人の中から、特に功績があった消防官に贈られる第78回「都民の消防官」（主催・産経新聞社、後援・フジサンケイグループ）の受章者5氏が決定した。選考では、東京消防庁が10人の候補者を推薦し、選考委員会が実績や人柄を踏まえて、書類選考した。表彰式は10月27日に千代田区大手町の大手町サンケイプラザで行われる。

東京総局
〒100-8077
東京都千代田区
大手町1-7-2
電話　03・3275・8747
FAX　03・5255・6634
shuto@sankei.co.jp
広告　03・3275・8654
購読申し込み・配達・集金
0120・34・4646
紙面・記事
0570・046460
Web
https://www.sankei.com/region/

（13日）
旧7月22日
（仏滅）
あすのこよみ
月齢……20.9
月出……5：22
日入……17：52
月出……21：11
月入……11：29
満潮……8：46
19：33
干潮……2：12
13：54
小潮……（東京）

志村署消防司令補・橋本勝幸さん（60）消防戦技のスペシャリスト

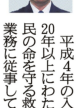
昭和59年の入庁後、40年近く消防活動一筋で力を発揮してきた。災害現場での活躍などが評価され、これまでに方面本部長賞を5度受賞。親身で情熱的な性格で周囲の信頼も厚く、模範となる存在として後輩の育成にも尽力。野方署で勤務していた平成24年、中野区で発生した住宅火災現場に臨場した。周辺への延焼の可能性が高いと速やかに判断し、火元となった建物以外に放水を実施するなど的確な指示で被害を最小限に防いだ。

令和2年に小平市で発生した解体工事中の救助事案。二次災害の危険性が高い現場だったが、中隊長として隊をまとめ上げ、けが人を早期に救出した。

経験した現場は約1万4400件。「消防戦技スペシャリスト」にも認定され、今でも現場の最前線で指揮を執る。積み上げた経験から実際の現場を想定した「寝ぼな分かりやすい訓練指導も行う。

受章を受けて「重みのある章をいただけるのは大変光栄です」とし、「先輩から教わった『消防魂』をもとに都民の生命や身体、財産を守るために今後も動務したい」と力強く語った。

渋谷署消防司令補・須藤健二さん（56）「東京の救急」の発展に貢献



平成4年の入庁後、20年以上にわたり、都民の命を守る救命救急業務に従事してきた。25年以降は新宿や渋谷といった大都市を管轄する消防署で勤務し、増加する外国人患者への対応にも果敢に取り組んでいる。これまでの「出場」回数は1万6千件を超える。23年には東村山市で発生した現場に救急隊長として出動・駆け付けると、警察署の道場で、心肺停止状態の男性警察官が倒れていた。居合わせた検視の医師らとともに除細動などの処置を迅速に行い、男性警察官は搬送先の病院到着前に意識を取り戻した。

これまでに、消防総監賞などへ数々の受賞歴を誇る。現在も救急隊長として第一線で活躍し、「東京の救急」の発展に寄与している。

また、悲惨な現場に遭遇した隊員の精神的ストレスに対処する「支援チーム」にも気を配る。思いやりを欠かさない献身的な姿勢で、多くの部下から全幅の信頼を寄せられている。

今回の受章には「びっくりした。私でいいのか」と笑いつつ、「少しでも多くのことを後輩に伝えていきたい」と決意を語った。

向島署消防司令・加納照彦さん（58）予防徹底、都民の安全守る

平成2年の入庁以来、長年にわたり予防業務の最前線で活躍してきた。担当した立ち入り検査や使用検査は約7千件に及び、その功績が高く評価されてきた。

平成4年には、都内で約20年ぶりとなる特定屋外タンク貯蔵所を含む大規模危険物施設の設置に携わった。地盤改良、許可から完成検査まで長期にわたり、関係者への具体的な指導を継続。防火安全性を高めたことで、予防部長賞を受賞した。

令和4年にせっけん工場での大規模火災が発生し、危険物の無許可貯蔵が確認された際には速やかに関係者に是正を求め、法令順守や防火に関する従業員教育と、施設保安点検の徹底に尽力した。建物の防火安全性の向上と、予防行政の適正な執行に寄与したことが評価され、方面本部長賞を受賞した。

予防業務への情熱は強く、都民の安心と安全を守るため責任感を持って取り組んでいる。人材育成にも力を注ぎ、部下からも慕われている。

受章に、「すごく光栄なことで家族ともども喜んでいる。今後も若手の方々に技術を伝授していきたい」と語った。

小石川署消防士長・加藤佳孝さん（55）磨き上げた車両操作の技術

平成元年4月に入庁後、ポンプ車やはしご車などを操縦する機関員として四半世紀にわたり、消火や救助の現場を支え続けてきた。

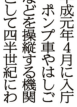
平成24年度に行われた、車両の運行技術を競う「操縦技能審査会」で、現場出動を待つ間に少しずつ磨き上げた車両操作技術と、経験から得た的確な状況判断能力を示し、消防総監賞を受賞した。

その実力は実際の現場でも遺憾なく発揮された。平成28年に新宿区山吹町で発生した火災現場では、延焼拡大の危険も大きい中、はしご車を迅速に配置。先着したポンプ隊とともに、逃げ遅れていた要救助者を火元の建物から助け出すことができた。

現在も小石川署のはしご機関員として最前線で活躍しながら、後進の育成にも尽力している。令和元年以降、車両操縦の指導をした機関員3人は消防総監賞を受賞、指導訓練の功労を認められ、自身も装備部長賞を受賞した。

受章を受け「上司や後輩、皆さまのおかげで偉大な章をいただけた」と声を弾ませ、「今後も都民のために技術を高めていきたい」と意欲を見せた。

矢口署消防司令補・中村さやかさん（56）全国初 女性ポンプ車機関員



平成5年入庁。翌6年の「女性労働基準規則」の一部改正に伴いポンプ車機関技術の資格を取得し、7年12月、全国初の女性ポンプ車機関員に任命された。以来、女性職域拡大の先駆者として絶大な存在感を発揮し続けている。

ポンプ車機関員になって間もない8年4月、大田区で発生した大規模倉庫火災では、現場に最先着して中隊の一員として活躍。被害を最小限に食い止めるなど、その功労が認められて消防総監賞を受賞した。

15年、東京消防庁で女性としては初めての「はしご小隊機関員」に任命。24年には、またしても同庁で女性初となる「ポンプ機関技術の達人」に認定されるなど、情熱と努力で道を切り開き、輝かしいキャリアを積み重ねてきた。

消防学校で助教を務めるなど、豊富な現場経験と指導力で後進の育成にも尽力。上司や同僚、部下からの信頼も厚い。

受章の知らせに、「これまで努力してきたことが認められ、とてもうれしい」とした上で、「自分を受け入れてくれた先輩、同僚に感謝したい」と周囲への思いを口にした。

■「都民の消防官」協賛団体　三菱地所、東京ガス、サンケイビル、富国生命保険、東京都消防慰話会、東京連合防火協会、東京都防災救急協会

■選考委員　委員長＝吉田淳一・三菱地所取締役会長▽委員＝小屋かをり・東京ガス広報部長、野内裕之・サンケイビルビル営業部長、石和照幸・富国生命保険業務部長、安田正信・東京都消防慰話会事務局長、水野寿・東京連合防火協会専務理事、山崎裕一・東京防災救急協会事務局長、佐々木美恵・産経新聞社取締役、酒井潤・産経新聞社社会部長

「疑え！すべての電話を。」警視庁

詐欺防止へ、広報大使委嘱

特殊詐欺被害防止広報大使の委嘱状を受け取るガンバレルーヤのよしこさん（前列右）＝警視庁本部

特殊詐欺の被害撲滅を目指して、警視庁は10日、お笑いタレントの陣内智則さん、ムーディ勝山さん、お笑いコンビ「ガンバレルーヤ」のよしこさんとまひるを、「一」ということ以上にない強いキャッチコピーで警戒を呼びかける。

10日に同庁本部で行われた委嘱式では、鎌田徹郎副総監が4人に委嘱状を手渡した。鎌田副総監は、今年1～8月の都内の詐欺の被害総額が約190億円となり、過去最悪となった昨年1年間の被害総額（約153億円）をすでに上回っていることについて、「非常に厳しい状況だ」と指摘。幅広い年代で被害が確認され、具体的な手口や、自分も詐欺被害に遭うかもしれないとった注意喚起を広げることが重要だ」と4人の広報大使の活躍に期待を寄せた。

ムーディ勝山さんは自身の持ちネタに絡めて「全ての電話を疑って、右から左に受け流して」と訴え、まひるさんは「被害に遭う方が少しでも減るよう何度も呼びかけたい」と意気込んだ。

同庁特殊詐欺対策本部のホームページでは、4人が登場する詐欺被害防止の動画や楽曲も公開している。

盗品買い取った疑い　中国籍の男と妻逮捕

盗品のネックレスなど20点を買い取ったとして、警視庁捜査3課などは盗品等有償譲り受けなどの疑いで、中国籍で無職、林杰容疑者（40）＝葛飾区四つ木＝と妻の職業不詳、比嘉由加里容疑者（37）＝同＝を逮捕した。いずれも「盗品とは知らなかった」などと容疑を一部否認している。

逮捕容疑は2月28日、共謀の上、荒川区のカラオケ店内で、ネックレスやピアスなど、指輪など20点を盗品と知りながら、約20万円で買い受けたとしている。

捜査3課によると、林容疑者らは、すでに逮捕、起訴された金品を盗む実行役らと、知人を介するなどして中国のSNS「WeChat（ウィーチャット）」で連絡を取っていたとみられる。

実行役が千葉県柏市の家から盗んだものだった。

2人の自宅からは400点近くの貴金属が押収されており、警視庁は盗品とみて調べている。

詐欺摘発に貢献　警察庁が感謝状

米MSとJC3

日本人を狙ったパソコンのサポート名目で金銭をだまし取る詐欺事件の摘発に貢献したとして、警察庁は米マイクロソフトと一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター（JC3）に感謝状を贈った。

警察庁などによると、マイクロソフトとJC3はサポート詐欺に関する情報収集や独自分析を通じて、犯行グループがインドに存在する可能性があることを突き止め、警察庁に情報提供。そうした情報などから日印当局は共同で捜査を進め、インド中央捜査局は詐欺事件に関与したとして、インド人の男6人を逮捕した。被害総額は約1億8千万円に上るとされる。

警察庁の櫛芳伸長官は5日印当局と面会し、感謝状を手渡した＝写真（宮野佳幸撮影）。

入管難民法違反疑い　派遣会社社長ら逮捕

2社を書類送検

農業にしか従事できないインドネシア人をクリーニング工場で働かせたとして、警視庁国際犯罪対策課などは、入管難民法違反（不法就労助長）の疑いで、人材派遣会社「スクラムヒューマンパワー」（山梨県笛吹市）の社長、日原達仁容疑者（54）＝同市＝らと、クリーニング会社「小林リネンサービス」（同）の役員、小林幹生容疑者（47）＝同県甲斐市＝の計4人を逮捕し、法人としての同社も同法違反容疑で書類送検した。

逮捕容疑は、共謀し、昨年10月～今年6月、特定技能の在留資格で農業にしか従事できないインドネシア国籍の男3人をクリーニング工場で違法に働かせたとしている。

国際犯罪対策課によると、スクラム社は令和4年12月～今年6月、クリーニング工場で働く資格のない外国人約120人を小林リネン社に派遣して少なくとも千万円ほど利益を得ていたとみられる。

日原容疑者は「農業の仕事がないときはクリーニング業で働けると思っていた」と容疑を一部否認し、小林容疑者は容疑を認め、「深刻な人手不足だった。会社を維持したかった」などと供述しているという。

都内の新型コロナウイルス感染状況

（都、9月11日 公表分）

感染者数（定点医療機関当たりの感染報告数）

3.98 人（9月1～7日）

前週 4.63 人（8月25～31日）

「都民の消防官」受章おめでとうございます。
フコク生命は「都民の消防官」を応援します。

生命保険という仕事、相互会社であること

フコク生命は２０２３年１１月に創業１００周年を迎えました。

１９２３年の創業以来、互いに助け合う“相互扶助”という考えのもと、人と人とのつながりを大切にしてきました。
さまざまな人たちや価値観との出会いを通して、新しい時代の人とのつながり方を探し、
次代の“相互扶助”を考えていきます。

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

登広 - 業務 -0049（2025.8.1）

富国生命保険相互会社
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-2　☎03-3508-1101（大代表）